

(4) 水道施設・管路の耐震化及び経年化の状況、鉛製給水管残存状況

令和5年度末の全国の水道施設の耐震化の状況は、浄水施設の耐震化率は44.4%、配水池の耐震化率は67.5%、基幹管路の耐震適合率は43.3%と依然として全体的には低い状況にある。

大阪府全体における令和6年度末の浄水施設の耐震化率は31.7%、配水池の耐震化率は55.0%、基幹管路の耐震適合率は59.8%となっている。一方、管路経年化率^{*}は37.1%となっている（P.48～50 参照）。

令和5年度末における全国の全管路延長に占める耐震管の延長・割合と法定耐用年数（40年）超の管延長・割合は、表-10のとおりであり、大阪府は、耐震管の状況は全国平均以上であるが、法定耐用年数（40年）を超えた管の割合は全国ワーストとなっている（表-8）。

また、鉛製給水管の残存状況については、残存延長は管更新などにより減少しているものの、残存件数は依然として全国ワーストとなっている（表-9）。

各事業体においては、アセットマネジメント手法を活用して、綿密な耐震化・更新計画を立案し、早急に水道施設・管路の耐震化、鉛製給水管の更新に向けた取り組みを進める必要がある。

^{*} 管路経年化率：法定耐用年数（40年）を超えた管路延長／全管路延長 × 100（%）

表-8 水道管路の耐震化及び経年化の状況（全国比較） 【令和5年度水道統計より】

耐震管の延長・ 全管路延長に占めるその割合				法定耐用年数(40年)を超えた管延長・ 全管路延長に占めるその割合			
管延長 (km)		割合 (%)		管延長 (km)		割合 (%)	
① 東京都	14,789.0	① 東京都	49.9	① 愛知県	11,863.0	① 大阪府	36.3
② 愛知県	10,630.6	② 富山県	32.4	② 北海道	10,090.7	② 神奈川県	32.3
③ 埼玉県	8,379.7	③ 神奈川県	30.5	③ 千葉県	9,280.1	③ 千葉県	31.5
④ 神奈川県	8,038.5	④ 埼玉県	28.1	③ 大阪府	9,044.4	④ 山口県	31.2
⑤ 大阪府	6,864.1	⑤ 大阪府	27.6	⑤ 神奈川県	8,516.7	⑤ 香川県	31.1

表-9 鉛製給水管残存状況（全国比較） 【令和5年度水道統計より】

残存延長 (km)				残存件数 (件)			
全体の残存状況 (km)		公道部の残存状況 (km)		全体の残存状況 (件)		公道部の残存状況 (件)	
① 兵庫県	394.6	① 石川県	265.1	① 大阪府	195,568	① 大阪府	79,568
② 石川県	337.3	② 兵庫県	149.2	② 兵庫県	182,714	② 兵庫県	42,248
③ 香川県	292.5	③ 大阪府	99.6	③ 香川県	120,534	③ 宮崎県	28,064
④ 大阪府	236.0	④ 静岡県	70.6	④ 神奈川県	110,509	④ 広島県	23,250
⑤ 宮城県	218.8	⑤ 香川県	54.6	⑤ 静岡県	93,667	⑤ 石川県	23,176